

★ヨハネの黙示録（あらし、短縮版）

・巻物を受け神の代理人として地上統治権を与えられた子羊。

わたしはまた、御座にいますかたの右の手に、巻物があるのを見た。その内側にも外側にも字が書いてあって、七つの封印で封じてあった。また、ひとりの強い御使が、大声で、「その巻物を開き、封印をとくのにふさわしい者は、だれか」と呼ばわっているのを見た。しかし、天にも地にも地の下にも、この巻物を開いて、それを見ることのできる者は、ひとりもいなかった。

巻物を開いてそれを見るのにふさわしい者が見当たらないので、わたしは激しく泣いていた。

すると、長老のひとりがわたしに言った、「泣くな。見よ、ユダ族のしし、ダビデの若枝であるかたが、勝利を得たので、その巻物を開き七つの封印を解くことができる」。

わたしはまた、御座と四つの生き物との間、長老たちの間に、ほふられたとみえる小羊が立っているのを見た。それに七つの角と七つの目とがあった。これらの目は、全世界につかわされた、神の七つの霊である。

小羊は進み出て、御座にいますかたの右の手から、巻物を受けとった。

巻物を受けとった時、四つの生き物と二十四人の長老とは、おのおの、立琴と、香の満ちている金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒の祈である。

彼らは新しい歌を歌って言った、「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない、わたしたちの神のために、彼らを御国の民とし、祭司となさいました。彼らは地上を支配するに至るでしょう」。さらに見ていると、御座と生き物と長老たちとのまわりに、多くの御使たちの声が上がるのを聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍もあって、大声で叫んでいた、「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい」。

またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、「御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」。

四つの生き物はアアメンと唱え、長老たちはひれ伏して礼拝した。

・天と地（大天使ミカエルとサタン〈竜〉）の戦い。地上における獣と偽預言者の支配。

赤い竜が現れる。竜は7つの頭に7つの冠をかぶり、10本の角をもっている。

竜は手下を引き連れて、天界へ乗り込む。迎え撃ったのは、大天使ミカエル率いる天使の大軍勢である。天使軍団と竜軍団の壮絶な戦いが始まる。竜の正体は、悪魔ともサタンとも呼ばれる年経た蛇である。

竜は手下もろとも地に叩き落とされる。

敗れた竜は、神の戒めを守り、イエスの証を持っている者たちを破滅させることで鬱憤を晴らすことにした。

10本の角と、神を冒瀆する名が書かれた7つの頭と、熊のような足と、獅子のような口をもった獣が海から現れた。獣は竜から力と権威を与えられた悪の王である。そのため人々は誰も獣と戦うことができず、そればかりかこれに従い、神として拝みさえした。

さらにもう一匹の獣が、今度は地中から現れた。この獣は、小羊の角に似た二本の角があって、竜のようものを言っていた。（偽予言者）

この獣（偽予言者）は、先の獣が持っていたすべての権力をその獣の前で振るい、地とそこに住む人々に、致命的な傷が治ったあの先の獣を拝ませた。そして、大きなしるしを行って、人々の前で天から地上へ火を降らせた。更に、地上に住む人々を惑わせ、先の獣の像を造るように、地上に住む人に命じた。

また、小さな者にも大きな者にも、富める者にも貧しい者にも、自由な身分の者にも奴隷にも、すべての者にその右手か額に刻印を押させた。そこで、この刻印のある者でなければ、物を買うことも、売ることもできないよ

うになった。この刻印とはあの獣の名、あるいはその名の数字である。

ここに知恵が必要である。賢い人は、獣の数字にどのような意味があるかを考えるがよい。数字は人間を指している。そして、数字は六百六十六（6， 6， 6）である。

・子羊に従う者。神の怒りを地上に注ぐ。最終戦争ハルマゲドン。

子羊（キリスト）がシオンの山に立っており、小羊と共に十四万四千人の者たちがいて、その額には小羊の名と、小羊の父の名とが記されていた。

彼らは、玉座の前、また四つの生き物と長老たちの前で、新しい歌のたぐいをうたった。この歌は、地上から贖われた十四万四千人の者たちのほかは、覚えることができなかった。

彼らは、女に触れて身を汚したことの無い者である。彼らは童貞だからである。この者たちは、小羊の行くところへは、どこへでも従って行く。この者たちは、神と小羊に献げられる初穂として、人々の中から贖われた者たちで、その口には偽りがなく、とがめられるところのない者たちである。

地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来た3人の天使が空高く飛んでいた。

第一の天使が大声で言った。

「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい。」

続いて第二の天使がこう言った。

「倒れた。大バビロンが倒れた。怒りを招くみだらな行いのぶどう酒を、諸国の民に飲ませたこの都が。」

第三の天使も続いて来て、大声でこう言った。

「だれでも、獣とその像を拝み、額や手にこの獣の刻印を受ける者があれば、その者自身も、神の怒りの杯に混ぜものなしに注がれた、神の怒りのぶどう酒を飲むことになり、また、聖なる天使たちと小羊の前で、火と硫黄で苦しめられることになる。その苦しみの煙は、世々限りなく立ち上り、獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぐことはない。」

天界では神殿から7つの災いを携えた7人の天使が出てきた。4つの生き物が天使たちに、神の怒りが満たされた金の鉢を手渡す。「神の怒りを地上に注ぐのだ！」神殿から声があがった。

第1の天使がそれを地上に注いだ。すると獣を礼拝する者と獣の刻印を受けた者に悪性の腫れ物ができた。

第2の天使がそれを海に注いだ。すると血の海でどうにか生き残っていたあらゆる海の生き物が、今度こそ完全に死に絶えた。

第3の天使がそれを川に注いだ。すると今度は川の水が血と化した。

第4の天使がそれを太陽に注いだ。すると太陽は、神を冒瀆する人を焼き殺した。

それでも獣に魂を売った人々は悔い改めようとしなない。

第5の天使がそれを獣の玉座に注いだ。すると地上は闇に覆われ、人々は闇の中で苦しみ悶えた。

それでも獣に魂を売った人々は悔い改めようとしなない。

第6の天使がそれを大ユーフラテス川に注いだ。すると水が涸れ、日の出る方角から来る王たち（悪に加担する悪者）のための道ができた。続いて竜と獣と偽預言者の口から、カエルによく似た悪霊の魂が飛び出し、来るべき神との戦いに備えて、全世界の王たちをハルマゲドン（=最終戦争。もともとは地名）と呼ばれるところへ召集するために飛び立った。

第7の天使がそれを空中に注いだ。すると神殿から「ことは成就した！」という声が響いた。

そして、稲妻、さまざまな音、雷が起り、また、大きな地震が起きた。それは、人間が地上に現れて以来、いまだかつてなかったほどの大地震であった。

あの大きな都が三つに引き裂かれ、諸国の民の方々の町が倒れた。神は大バビロンを思い出して、御自分の激

しい怒りのぶどう酒の杯をこれにお与えになった。

すべての島は逃げ去り、山々も消えうせた。一タラントンの重さほどの大粒の雹が、天から人々の上に降った。人々は雹の害を受けたので、神を冒瀆した。その被害があまりにも甚だしかったからである。

・バビロンの大淫婦への裁き。キリストの再臨。

さて、七つの鉢を持つ七人の天使の一人が来て、わたしに語りかけた。

ここへ来なさい。多くの水の上に座っている大淫婦に対する裁きを見せよう。地上の王たちは、この女とみだらなことをし、地上に住む人々は、この女のみだらな行いのぶどう酒に酔ってしまった。」

そして、この天使は”霊”に満たされたわたしを荒れ野に連れて行った。

わたしは、赤い獣にまたがっている一人の女を見た。この獣は、全身至るところ神を冒瀆する数々の名で覆われており、七つの頭と十本の角があった。

女は紫と赤の衣を着て、金と宝石と真珠で身を飾り、忌まわしいものや、自分のみだらな行いの汚れで満ちた金の杯を手を持っていた。その額には、秘められた意味の名が記されていたが、それは、「大バビロン、みだらな女たちや、地上の忌まわしい者たちの母」という名である。

わたしは、この女が聖なる者たちの血と、イエスの証人たちの血に酔いしれているのを見た。この女を見て、わたしは大いに驚いた。すると、天使がわたしにこう言った。

「7つの頭は、サタンの町がある7つの丘のこと。10本の角は10人の悪しき王。王たちは身のほど知らずにも小羊（イエス）に歯向かうけれども、もちろん滅びる。」「正しき民よ、彼女から離れよ。彼女の災いに巻き込まれないようにせよ。」

大淫婦の焼かれる煙と悲しみを見て、贅沢に暮らした地上の者たちは嘆き悲しんだ。「災いだー。偉大な都が裁かれるー。」

そこへ力強い天使が舞い降り、巨大な石を海に投げ入れて大声で言った。

「悪の巢窟、忌まわしき都は、このように打ち倒され、完全に姿を消す。預言者と聖なる者たちの流した血が、今ここにあがなわれるのだ！」

「ハレルヤー！」天の群衆が叫ぶ。「アーメン！ ハレルヤ！」24人の長老と4つの生き物が、ひれ伏して叫ぶ。

「ハレルヤ！ 全能者にして主なる神が、王となられた！ ハレルヤ！」激しい水音とも雷鳴ともつかぬ声がどこからともなく、わきあがる。天は勝利と栄光と大いなる喜びに奮い立っている。

そこへ白馬にまたがった『神の言葉（ロゴス）』と呼ばれる者が現れる。

彼は血染めの衣をまとい、同じく白馬に乗った天の軍勢を従えている。正義によって戦い、正義によって裁くロゴスは、この期に及んでなお抵抗を続ける獣と地上の王たちの連合軍をコテンパンに打ち破り、偽預言者もろとも、生きたまま硫黄の燃え盛る火の海に投げ込んだ。それ以外の悔い改めなかった者たちも、剣で切り殺して鳥の餌にしてしまった。さらに底なしの淵の鍵と鎖を持った天使が地に舞い降り、竜でありサタンである年経た蛇を淵深くに閉じ込め、固く封印した。

1000年の間、その封印が解かれることはない。さらに今度は、神とイエスのことばを守って死んだ殉教者と、獣の像を拝まず、獣の刻印を受けることもなく死んだ神のしもべたちに、再び生が与えられた。彼らには1000年の間、イエスと共に地上を支配することが許されるのだ。こうして千年王国の幕が上がった。

1000年の期間が過ぎ、竜が解き放たれた。竜はゴグとマゴグ（神の民にとって敵となる地の王）を惑わし、戦いの召集をかけた。しかし竜の軍勢が聖都を取り囲むと、突如天から火が降り注ぎ、彼らを焼き尽くした。そして彼らを惑わした竜は火と硫黄の池に投げ込まれた。そこには1000年前に投げ込まれた獣や偽預言者たちもいて、彼らは未来永劫、仲良く苦しむことになる。

そしてついに、最後の裁きの時が来た。

・最後の審判。永遠の楽園。

そしてついに、最後の裁きの時が来た。

天も地もない空間の白い御座に座ったイエスが、重々しく命の書を開く。

海や黄泉から無数の死者が吐き出され、その1人1人が書に従って最後の裁きを受ける。ある者は天使に導かれ、またある者は死霊によって第2の死に引きずり込まれる。

すなわち命の書に名前がない者は、真の地獄行きが確定するのだ。

新しい天地があった。先の天地は消え、海もなくなっていた。

新しいエルサレムが、着飾った花嫁のように輝きながら天から降りてきた。

そこには高い城壁があり、宝石で飾られた12の土台にはイエスの12使徒の名が刻まれている。

また真珠で作られた12の門にはイスラエルの12部族の名が記され、それぞれに天使がついている。城壁は碧玉で築かれ、都は純金製である。

都の中に聖所はない。神とイエスが聖所であるからだ。

日と月もない。神の栄光が都を照らすし、イエス自身が明かりであるからだ。

都の門は終日閉ざされることはない。しかし中に入れる者は限られている。

命の書に名前を記されている者だけが門をくぐることができる。

都の大通りの中央を、命の川が流れている。川の両側には命の木があり、その実は人々を癒す。

都の中に呪われるべきものは、何1つない。神とイエスが都の中にあるからだ。

もはや死もなく、悲しみも叫びも痛みもない。神とイエスが世々限りなく、人々と共にあるからだ。

([絵画で聖書 アートバイブル](#) ヨハネの黙示録)